

パパと一緒に バス釣りに！

吉田幸二
絵：平野恵理子



BASS-FISHING
with PAPA !

YOSHIDA,
KOJI / illustration:
HIRANO, ERIKO

パパと一緒
にバス釣りに！

吉田幸二

絵・・平野恵理子
筑摩書房

パパと一緒にバス釣りに！

二〇〇〇年三月二十五日 初版第一刷発行

著者 吉田幸二

発行者 菊池明郎

発行所 株式会社 筑摩書房

東京都台東区蔵前二・五・三

郵便番号 一一一・八七五五

振替〇〇一六〇一八・四一二三

印刷・製本 中央精版

乱丁・落丁本の場合は、左記宛にご送付ください。送料小社負担にてお取替えいたします。
注文・お問い合わせも左記へお願いいたします。
千三三一・八五〇七 大宮市柳引町二・六〇四
筑摩書房サービスセンター
電話 〇四八・六五一・〇五三

ISBN4-480-87724-X C0076

©KOJI YOSHIDA 2000

Printed in Japan

まえがき

釣り竿を買う前に、この本を読んでみてください。

子供のいない人も、孫のいる人も、読んでみてください。

「魚釣りとキャッチボールを、じぶんの子供に教えることは、アメリカの父親の仕事なんだよ」という言葉を耳にしたときに、この本の誕生は決まったようなものだ。神話も伝説も持たない北米大陸の人々は、ハリウッドの映画とメジャーリーグのベースボールを、成長させてきたのだろうか、実は、フィッシングというものももうひとつ育ててきたのだ。

父親が釣りを教えるということは、生きる方法を教えることでもあるし、思うにまかせないことのほうが多い現実の世界を教えることでもある。ぼく自身も、じぶんの娘と釣りのたのしさをシェアしてきたつもりだが、ぼくのような「誤釣生活人」が、日本中の子供たちに向けてそれをできるとは思えなかった。誰かいい先生がいたら、子供たちに釣りを教える父親のための教科書が作れるのにと考えていて、吉田幸二さんの顔が思い浮かんだ。

吉田さんは、「ドラ猫大将」のような人だ。釣りにしても哲学にしても、学

校の先生のように教えるはずがない。近所の空き地を仕切っているドラ猫が、幼い猫若い猫たちに餌の獲り方を教えるように、おもしろく本気に釣りを教えてくれるにちがいないと思った。なぜ、そこに魚がいるのか、魚たちはどうやって生きているのか、魚の好きなことはなんなのか、魚のいる環境である水をどう見たらいいのか……魚と人間とを、両方をおなじ生き物としてとらえて釣りをしている吉田幸二というおじさん以外には、この役割をできる人は考えられなかった。

しかも、幸運にも、ドラ猫大将には目の中に入れてタバスコを振りかけても痛くないほどかわいいお嬢さんの杏ちゃんがいる。そうか、吉田さんが、じぶんの子供に教えるバスフィッシングのおもしろさや方法や考え方を、そのまま立ち聞きするように読者が学んでしまえばいいじゃないか。読者のほうを向いて、高いところから話すとか書くななんて姿は、ドラ猫大将には似合わない。

そうして、「想像どおりの予想以上」の本はできあがったのだった。作るのに時間はかかったけれど、それも釣りによく似合っている。

糸井重里

目次

まえがき 糸井重里 1

釣り竿を買う前に、この本を読んでみてください。

子供のいない人も、孫のいる人も、読んでみてください。

みんなバスフィッシングのためだった

憧れのバスフィッシング 11

ぼくのカントリーライフ 15

父から娘への贈り物 19

エンジョイ、フィッシング！ 23

ぼくんちスタイル 26

子どものための釣り入門

ひとまずまじめにライン結び 31

いよいよ、キャスティング 35

バスじゃなくなつてOK！ 40

ザリガニを釣ってみよう 46

フナ釣りに病みつき 50

ワカサギの秘密 52

初めてのバス 56

7つの水槽の話 58

ルアーに挑戦 63

バスと一緒に365日

太陽と月と星と 93

カレンダーの他にも暦はある 95

季節をバスに教わろう 97

心が弾むスプリング

104

梅雨のシャローの主は誰？

113

ワカサギと共に夏が来る

116

秋は「食う、寝る、隠れる」

122

冬、バスは何を夢見て浮遊する？

129

霞ヶ浦を知りつくそう

クルメサヨリとイサザアミ

139

水生植物のビッグパワー

142

風と友だち

144

偉いゾ、ユスリカ

146

踊る、アメリカザリガニ

148

ゴキブリが消えた！

151

牛ガエルだつてかわいい

153

子どもの憧れカブト虫

156

アユに注目

159

吉田流バスフイツシング

一子相伝！

163

秘伝その1 基本中の基本

165

秘伝その2 信じるものは救われる

167

秘伝その3 バス発見術はシャローにあり

169

秘伝その4 徳を積みなはれ

171

秘伝その5 水を見たらルアーを投げろ

174

秘伝番外

176

バスのかわりにひと言

たったひとつのビニール袋が……

181

デカバスと会うための心得

183

バスはそんなに悪者か？

185

吸い上げた、濁った、汚れた

190

子ども達の霞ヶ浦

193

あとがき

201

カバー・本文イラスト

平野恵理子

ブックデザイン

祖父江慎

＋コズフィッシュ

パパと一緒にバス釣りに！

みんなバスフイッシングのためだった

憧れのバスフィッシング

小学生の頃、川原を飛んでいるトンボや草っ原を行き交うイナゴを捕まえてハリに刺し、イワナやヤマメ、ハヤなどを釣った。母親の故郷・岩手県の江刺の夏休みにはそんな思い出がある。何歳になってもその時の魚たちの引きが鮮明に蘇る。ぼくは幸せだった。

ぼくがバスフィッシングを始めたのは、72年の初夏だった。初めてルアーをキャストした湖は相模湖で、この日は多分に漏れずボウズ・オデコ・アブレのノーフィッシュ。しかし、不思議なことに、なんだか楽しかった。心が幸せだった。

初めてバスを手にしたのは、その日から数えて28日目のことである。約1ヶ月近くかかってバスという魚を目にし、触れ、手にしたのである。バスを誘い出したルアーはスプーンだった。嬉しかった。心臓が破れそうだった。幸せだった。

車の免許を取ったのも、ボートの免許を取得したのも、タイプライターの練習も、

図鑑を見るために図書館に通ったのも、公園でキャスティングの練習をしたのも、英会話学校に通ったのも、全てはバスフィッシングのためだった。懸命な努力の割には遅々として進まない学力に、“後悔先に立たず”を思い知った。でも、一生懸命な分だけ幸せだった。

「私と釣りとはどっちを取るの？」と彼女に問われて、迷わず「釣り」とぼくは答えた。泣いている彼女に、「ロッドやリール、それにルアーなんかの釣り具は、オレが死んだとき一緒に棺桶に入れるけれど、キミは入れないじゃないか。それとも、オレと一緒に棺桶に入ってくれるかい？」と言った。ぼくは彼女は黙って釣り場へと送り出してくれた。彼女とは現在のカミさんである。カミさんが、バスフィッシングを理解してくれたことが幸せだった。

「小学校や中学校などの幼なじみが、人生の一番の友である」なんて言う話を聞いたことがある。が、何歳になっても友情を育むことはできるし、強い絆で結ばれる。また、世代を越えた友情というものも存在する。バスフィッシングを通じて得た多くの友達が、ぼくの幸せの大きな証でもある。

バスフィッシングをやったことで、ぼくはいつもハッピーだった。バスフィッシン

グのおかげでぼくは、意志を強固にしたり、思考回路を働かせたり、神経を集中させたりすることを学ぶことができたし、精神的にも肉体的にもたくさんのことを教えてくれる強く大きな存在だったのだ。日常生活で緊張した心や体をリラックスすることもできたし、たくさんの幸せを運んでくれたのである。

娘が生まれたとき、この幸せを、娘の杏あんずにも味わって欲しいと思った。バスフィッシングから研究心や好奇心、応用力や持久力などを学んで欲しいと思った。信頼や思いやりから生まれる愛情とか、友情も育んで欲しいと思った。バスフィッシングを知ることによって、より幸せになって欲しいと考えた。ぼくがそうだったから。

いまぼくは、この世で最高に幸せである。が、ただひとつだけ願いがある。それは娘から、「パパ、釣りに行こう!」と誘って欲しいのである。彼女の意志で、オヤジを釣りに誘って欲しいのである。子どもと一緒に楽しむバスフィッシングこそ、ぼくが憧れ、夢見たアメリカンライフスタイルだからである。

ぼくが子どもの頃には、「パパは何でも知っている」や「ビーバーちゃん」「名犬ラッシー」「パパ大好き」などのアメリカのテレビドラマが画面に溢れていた。それらの番組には、強く大きな存在感のある父親や兄、叔父などが必ずいて、主人公たちを

優しく見守ってくれていた。テレビのスイッチをひねる小学生のぼくの目の前に、憧れのアメリカが存在していた。それが強く大きな父親や微笑みの溢れる幸せな家庭生活だったのかもしれない。

娘の杏とぼくの関係を、子どもの頃に見たアメリカのドラマのようにしたいと考えたのは、小学生当時に刷り込まれた“憧れ”そんなことが原因かもしれない。憧れの世界に近づくために、ぼくはバスフィッシングを娘に教えることにした。